

An abstract painting with a textured surface. The color palette is dominated by warm tones: reds, oranges, and yellows, set against a light beige or cream background. The brushstrokes are visible and expressive, creating a sense of movement and depth. In the upper right quadrant, the words "CULTIVATE THE EARTH" are faintly visible, written in a simple, sans-serif font. The overall composition is dynamic and layered.

バイオ戦略2020策定に対する考え方

藤田 朋宏

2021年1月8日

以下の考えを持って、バイオ戦略2020年の策定に参加致しました

データ連携 データ活用	データ連携・データ活用は 目的ではなく手段である	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存事業の効率化や高度化を目指した取り組みとしてデータ連携を捉えるのではなく、まだ生まれていない事業構造・ビジネスモデルを実現するための仕組みを、業界横断的・省庁横断的に準備しておくことが肝要
	現存するデータよりも将来のデータ、 現在の事業よりも将来の事業を視野に	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の測定機器で得られたデータばかりを議論の対象にするのではなく、今後産まれるであろう新しい測定の仕組みや測定機器から得られるデータを、積極的に取り込み、活用できる枠組みを作っておくことが肝要
バイオ拠点	バイオコミュニティに、人材と資金が 自律的に集まり続ける仕組みを作りたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ バイオコミュニティの形成を通じ、バイオコミュニティに今後集まる人材と資金を増やすための枠組みを作りたい。既存の設備や取り組みを評価する体系になってしまうと広がらない。（集中と選択の価値観で推進するとバイオコミュニティは広がらない。）
	国は選別する立場ではなく、 自治体の取り組みを応援する立場に	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後長期的に、バイオコミュニティの形成に携わる人材数や資金量をモニタリングし公表できるようにするなど工夫をし、日本の各地でバイオコミュニティ立ち上げが進んでいて盛り上がっている様子を世界に示すことで、さらなる資金と人材の流入の好循環を作ることが肝要。
地球規模 での 日本の 立ち位置	世界の中での日本の技術的・環境的な 強みはどこにあるかを意識	<ul style="list-style-type: none"> ✓ バイオエコノミーの推進は、地球規模での各国の役割分担と言う視点を大事にしたい。研究開発に留まらず、その成果が経済合理性が成立する事業として持続できるか議論が必要。つまり、世界に対して日本はこの領域で「何を売ることができるのか」という視点を持つことが肝要。
	日本の事業者が継続的に事業を営む ことができる競争力が保てる領域はどこか	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日本の土地・気候・環境・人材の強み・弱みを精査し、真正面から受け入れ咀嚼し、バイオエコノミーの文脈で世界的に新しい産業構造に変わる過程での、日本の産官学それぞれのあり方の議論が肝要。